

2024年1月

*** 年頭所感 ***

2024年の世界経済

日興リサーチセンター株式会社

理事長 山口 廣秀

明けましておめでとうございます。2024年（令和6年）の年明けを迎えました。

昨年を振り返って

昨年の世界は、政治・外交・経済いずれをみても激動の一年でした。ついに戦争と対立の時代に入りつつあるようにみえます。ウクライナ戦争は、ロシアの優勢が報じられるようになり、和平への途は全くみえていません。NATO諸国の支援疲れさえ取り沙汰されるようになっていきます。10月にはイスラエルとハマスの戦争が勃発し、当面停戦に至る展望は拓けていません。背後にイランの暗躍も囁かれ、それと連動した他国の動きも目立っています。2つの戦争とそれに連なる武力行使が、地球上で同時進行する異常事態です。一方、米中の対立は、双方の安全保障とも絡んで根は深く、打開の目途は立っていません。それどころか中国に対する警戒感はグローバルに広がり、一帯一路構想からイタリアが離脱するなどの動きもみられるようになっていきます。日本の政治は、こうした世界の動きとは一線を画しつつ、このところ混迷の度を深めています。

このような情勢の下で、世界経済は、米欧の金融引締め効果から減速しています。しかし、コロナ禍の下で投入された財政の刺激効果はなお強く、インフレは依然高めで推移しています。景気の減速、高めのインフレ、高めの金利といった、コロナ禍前まではみられなかったような経済情勢に世界は、今直面しています。この間、日本経済は、コロナ禍から脱出するにつれ、持ち直しの方向を辿ってきています。物価は、輸入インフレの段階からホームメイドインフレの段階に移っています。長年の課題であったデフレも、既に克服されているようにみえます。

2024年の世界経済

さて、今年はどんな年になるのでしょうか。世界は、政治の季節を迎えます。年明け早々には台湾の総統選挙、春にはロシアの大統領選挙、インドの総選挙、そして秋には米国の大統領選挙が控えています。しかし、政治の季節を経てもなお、戦争と対立の時代に終止符を打つことは難しいでしょう。日本の政治の混迷も、抜本的な解決に至らないまま底流していくことになるでしょう。いずれにしても、世界的に不安定な政治情勢と厳しい安全保障環境は、内外経済にも様々な形で影を落としてくると予想されます。

まず、日本経済ですが、海外環境を考えると輸出は、伸び悩みがはっきりとしてくるでしょうし、インフレ進行に伴って個人消費にも下押し圧力が働いてくるでしょう。企業の設備投資も、輸出の下振れと企業収益の減少を主因に、弱めに振れていくとみています。日本経済は、早晩ピークアウトしていくと考えられます。しかし、問題はインフレ率です。人々のインフレ予想は高まってきていますし、物価押し上げの力は、賃金上昇の影響もあって、サービスから財まで幅広い品目に及んでいくでしょう。インフレの厄介なところは、一旦上振れていくとなかなか下がりにくいことです。景気が弱めとなり、需給ギャップも供給超過の方向に振れていったとしても、インフレはなかなか収まらないかもしれません。日銀が金融引締めを動いたとしても、インフレを終息させることは容易ではありません。前年比3%超のインフレが続いてもおかしくありません。今年の日本経済は、景気の減速とインフレの進行という難しい問題にぶつかることになりそうです。

他方、世界経済をみますと、米国経済は、金融引締め効果があらわれて一段と減速に向かうでしょう。しかし、引締めが不十分だったこともあって、インフレ率はインフレ目標の2%にはなかなか落ち着いていかないと思います。やはりいずれかの時点で追加的な引締めが必要になるとみられます。

ユーロ圏は、既に景気後退とインフレが同時進行するスタグフレーションにあります。スタグフレーション下での政策の基本は、まずはインフレを制圧すべく金融引締めを強めていくことです。ただ、現在のECBは、景気への配慮からなかなかそうした決断には辿りつけないかもしれません。そうなると、景気後退とインフレの共存が長く続くという

ことになりかねません。

中国は、不動産バブルの崩壊という大きな困難に直面しています。不動産バブルの処理のためには、企業の債務と金融機関の不良債権を同時に片付けていくことが必要ですが、そうした大胆な動きはみえてきていません。90年代の日本をみるようです。となると、経済力は低迷しますし、場合によってはデフレに陥る可能性もあります。中国は、地方財政の混乱と政治の不安定化を招くようなドラスティックな処方箋よりは、差し当たり経済力の低迷を甘受するといった選択を行っているのかもしれない。

おわりに

以上の通り、今年の日本経済、米欧経済、そして中国経済を巡る情勢は非常に難しくかつ厳しいと言わざるを得ません。

しかし、とくに日本においては、高めのインフレと高めの金利の下で進行する企業や産業の優勝劣敗は、経済を大きく活性化する要素でもあります。この30年そうした環境に恵まれなかったことを考えれば、むしろ大きな飛躍を遂げるためのまたとないチャンスかもしれません。今年の干支は辰です。厳しい経済情勢の中にあっても、昇り龍の勢いを得ていくことを期待しながら、2024年の様々な展開をみていきたいと思えます。皆様のご健闘を祈念しています。

以 上